

登録コード	L2980700		開講年度	2026			
担当教員	両角 文秋 他			副担当	松村 美奈・速水 香織・中澤 光平・鈴木 裕也		
授業科目	国語科指導法						
英文授業名	Methods in Teaching Japanese Literature						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	火曜・1時限
講義室	人文204 演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2021Lカリ、2020Lカリ						
	【2022年度以前対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー				中学・高校の国語教員に要求される、教科指導力、教室運営力を持つ。		
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	国語の教科指導力について、授業案や授業運営、さらに教育現場からの報告・提案などをテーマとして講義・演習・ディスカッション行う。その上で、特に「近現代の文学作品」「古文」「漢文」を中心とした指導案作り、およびそれに基づいた模擬授業を行なう。発表回数などは、受講者人数により調整される。模擬授業では、担当者はその場で教師および参加者から評価され、また他の受講生の模擬授業については評価を下す。						
授業計画	第1回（4月14日）：ガイダンス・中等国語科教育の目標と内容構成 第2回（4月21日）：中等国語科の教育課程と学習指導要領 第3回（5月12日）：学習指導案 第4回（5月26日）：文学的文章の教材化の実際 第5回（6月2日）：文学的文章を扱う授業の実際 第6回（6月16日）：説明的文章の教材化の実際 第7回（6月23日）：説明的文章を扱う授業の実際 第8回（7月7日）：話すこと・聞くことの実践 第9回：古文の「授業を作る」ということについて＜概説＞ 第10回：「問い」について考える（古典教材を用いて）＜実践＞ 第11回：中学校・高等学校教材（古文・漢文）の分析と指導案作成のポイントについて 第12回：模擬授業実践及び全体協議・相互評価 第13回：模擬授業実践及び全体協議・相互評価 第14回：模擬授業実践及び全体協議・相互評価 第15回：全体のまとめ - 中学・高等学校古典指導ポイントの整理及び振り返り・授業アンケート実施 第9回～第15回は集中講義 8月31日：2～4限 9月1日：2～3限 9月2日：2～3限						
成績評価の方法	指導案（素材研究等も含む）・レポート50%、模擬授業・ディスカッション50%によって総合的に評価する。 模擬授業の評価には、他者の模擬授業の評価点・問題点を明確に指摘できるかどうか（他者の模擬授業への参加態度）も含まれる。						
成績評価の基準	「成績評価の基準」に照らして卓抜していれば「秀」、優れていれば「優」、良好であれば「良」、基準を満たしていれば「可」とする。						
事前事後学習の内容	模擬授業に対して十分に情報収集・準備を行うことを事前学習とし、模擬授業の参加者からの意見を考慮しながら授業内容を改善するべく検討することを事後学習とする。						
履修上の注意	この授業は、2・3年生のみ対象となっています。 教員免許を必ず取得し、教職に就く意志をもって受講すること。 無断またはやむを得ない理由のない遅刻・欠席は、教員の資質として大きな問題であると考えられるので厳禁とする。これがあつた場合、他の成績評価の基準にはかわらず単位認定しないことがある						
質問、相談への対応	両角先生（火曜1限）：授業終了後に受け付ける。 松村先生（集中講義）：授業終了後またはメールにて受け付ける。 集中講義担当者（松村）のメールアドレス matsumura-m@abu.ac.jp （メール連絡する際は、を@に変更して送信すること）						
教科書	各社の中学・高校用「国語」教科書、他は授業中に教材を配布する。						
参考書	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説 国語編」「高等学校学習指導要領解説 国語編」文部科学省、その他授業中に適宜指示する。						